主題名 「信頼友情」

内容項目 2-(3) 信頼友情

平成26年5月29日(木) 第2学年A組 場所：2A教室 授業者 宮下 昌志

1. ねらい 互いに信頼し、理解し合い、相手の幸福を願って助け合い、友情を深めていこうとする意欲を育てる。

2. 資料名 絶交（群馬の道徳第39集）

3. 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道徳的価値について《価値観》

学習指導要領には、「真の友情とは、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念が根底にある。そして、相手の人間的な成長を願い、お互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係であることが大切である。」と書かれている。中学生に時期は、自我の成長とともに広くて浅い友人関係からもう一步踏み込んだ結び付きを求めようとする傾向が見られる。お互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。そこで、相手の表面的な言動だけでなく、内面的な良さに目を向け、相手の成長を心から願い、お互いに励まし合える信頼関係を育てることが大切である。そして、その場だけの付き合いや、都合の良い相手とだけの狭い範囲の人間関係にとどまることなく、生涯にわたってよりよい友人関係を育てていこうとする意欲を高める必要がある。

(2) 生徒の実態《生徒観》

本学級は、男子8名、女子12名であり、実態調査や日頃の観察から、ほとんどの生徒には特定の友人がいて、付き合い方もある程度決まっているように思われる。また、お互いに助け合っている関係については、実態調査や普段の様子から見てもあるようである。しかし、共に忠実し合い、高め合おうとする関係までは、ほとんど至っていない現状である。言い辛いことを相手に伝えた場合に、友人関係が壊れてしまうことに不安を感じ、表面的に合わせてしまっている生徒がほとんどである。また、楽しく付き合うことができればよいと考えている生徒も少なくない。

(3) 学校教育全体を通しての指導

① 教科指導

- ・ 国語 走れメロス(1月)
物語の読み取りを通して、人との関わりの中で内面の揺れや葛藤に触れる。

② 行事

- ・ 修学旅行3年(6月)、生徒会交流会(6月)、校内文化祭(11月)、人権週間(12月)

③ 日常指導の中で

学級全体としては楽しく過ごしている生徒が多いが、友達に対して感情をそのままぶつけたり、厳しい口調で注意をしたりする姿が見られる。相手の状況や思いを考えてから言葉をかけるよう指導しているが、相手の立場や気持ちを理解し、友情を深めることについてはじっくりとその素晴らしさを考えさせる指導が必要である。

本時の授業は「深化」を意図して行う。様々な指導を通して友達の大切さについて考える機会はあるが、相手の立場や気持ちを理解することで友情が深まることについては、じっくりと考えを深めているとはいえない。本時では、理解し合うことの難しさや大切さ、素晴らしさについてじっくり考え、友情に対する感じ方、考え方を広げ深めさせたい。

(4) 資料について《資料観》

主人公の和男は、後輩の指導方法をめぐって弘と対立するが、親友である健一は、自分のことを理解し同調してくれるものと思っていた。ところが、健一は、弘と共に行動しており、その様子を見て裏切られた思いを感じた。和男は、健一と絶交しようと思ったが、健一の度重なる話しかけに応じて話を聞くことになった。そうして自分のために調整役に徹している健一の思いに触れ、気持ちに変化が生じてくるのであった。この資料から、友情をより身近なものとしてとらえ、意見が違う友人のことを認められたり、親しい友人でさえもコミュニケーションをしっかりとる必要があることを理解したりして、友人関係を保つためには努力が必要であることに気づかせたい。

4. 深化を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための工夫

(1) 道徳的価値の大切さを理解させるために

- ・友人関係について実態を把握するためにアンケート調査を行い、導入の段階で教師から学級の実態として提示する。
- ・資料を前半と後半に分けることによって自分の考えを出しやすくする。
- ・読み物資料の登場人物の心情を考え、班（3～4人）で、話し合うことによって、偏った考えを持つのではなく、自分の気づかなかった考えを発見できるようにする。また、その考えにおいても、意見を出し合い横に広げていけるように助言する。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・ワークシートを用いることによって、いろいろな考えがあることを教師が把握できるようにする。また、心情図の変化を、黒板に提示できるよう心情円盤を用いる。
- ・和男がどんなことに気づいたのかを班で話し合わせることによって、親友のあるべき姿を考えさせ、価値の把握ができるようにする。

(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・展開の後半部分で、よりよい人間関係を育むためにアサーショントレーニングを行い、相手を認めてあげる言葉を考えられるようにする。

5. 本時の展開

過程	学習活動と発問『 』(☆は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援の工夫
導入 (10分)	アンケート結果を提示。 『友達との関係で、良いなと思う時、嫌だなと思う時はどんな時でしょうか。』 ・困っているとき助けてくれた。 ・悪口を言われた。 ねらいに向けて問題意識を高める。＜価値理解＞ 『嫌だなと思うときがまったくなければ、最高の友人関係ですか。』	・事前に友人関係を振り返ることのできるクラスの実態調査といういを実施し、概要を模造紙にまとめておく。 ・価値への方向付けを図れるように、発問によって問題提起する。

<p>展開 (35分)</p>	<p>資料の前半を読み、和男の心の中を班で話し合う。 <価値理解> 『和男君の健一君に対する思いを書いてみよう。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対許せない。 ・言い過ぎたかな。 <p>資料の後半を読み、和男の心の変化を班で話し合う。<価値理解> ☆『和男は、どんなことに気付いたのでしょうか。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健一の友だちを思う気持ち。 ・自分が意固地になっていたこと。 ・嫌なことにも耳を傾ける必要があること。 ・もっときちんと話をすればよかった。 <p>アサーショントレーニングを行う。 『絶交するのではなく、健一に対して歩み寄る言葉を考えてみよう。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健一の考えを話してくれよ。 ・二人で話すのはよくないよ。 <p>今日の授業の感想を書く。 『今日の感想を書いてみよう。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは心情図と自分の考えを書かせてみて、そこから班になって自分の考えを発表させていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは心情図を書かせてみて、変化をとらえさせてからそれを互いに見せ合い互いの考えの違いを出し合いながら、自分の考えを発表させていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いに考えた言葉を言い合い、それぞれの言葉から受ける印象について、健一君になったつもりで伝えるように助言する。
<p>終末 (5分)</p>	<p>教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを親身に考えてくれた友達の話をする。信頼し合う友情の素晴らしさを感じ取らせる。